

クラウド型脆弱性管理サービス



FutureVuls

---

現場の状況(お客様の声)と  
FutureVulsで解決できる事

# 脆弱性管理システムはなぜ必要？

近年、脆弱性の急増・IT環境の複雑化によって、セキュリティリスクがますます高まる中、「万が一」による損害を防ぐことが重要です

## 脆弱性の急激な増加



## IT環境の複雑化



詳細の把握・  
管理が困難に

セキュリティ事故のリスクがより身近に

顧客情報・  
社内情報の漏洩

サービスの停止

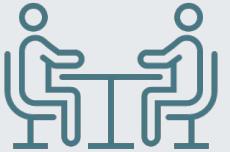
金銭的な損害

復旧作業への  
膨大なリソース投入

会社の信用低下

自社を脅威から守るために 繼続的な脆弱性の管理 が必要です

# FutureVulsで解決できる事

課題	現場の状況（お客様の声）	FutureVulsで解決できる事	Futureがご支援できる事
1. 資産の現状把握とラベリングが困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資産情報の不備、分散によりしっかり管理できていない</li> <li>・重要度評価の欠如、ビジネス上の重要度評価が難しい</li> </ul>	<span style="color: #0070C0;">◎</span> 資産情報の一元管理と、重要性含めたハンドリングが可能になります。	
2. 脆弱性評価(トリアージ)と影響判断の複雑さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク評価に関する専門性が不足</li> <li>・情報過多で優先順位付けも不十分</li> <li>・影響範囲調査の負荷が高い</li> </ul>	<span style="color: #0070C0;">◎</span> 露感レベルとお客様における資産の重要性を加味したフレームワークを用い、専門家が不在でも自動的に最適な判断が可能です。	脆弱性管理サービス FutureVulsを ご紹介いたします
3. 人的リソースと専門知識の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性的リソース不足に悩んでいる</li> <li>・高度な専門性が要求されている</li> <li>・セキュリティ人材育成が困難で、属人化している</li> </ul>	<span style="color: #0070C0;">◎</span> セキュリティ運用者の視点で開発されたツールの利用により、管理レベルの向上＆均一化と、管理作業の効率化も図れます。	
4. 脆弱性情報の配信とコミュニケーション課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セキュリティは粒度・レベル等を考慮した情報伝達が難しい</li> <li>・日々情報を集め配信する業務が負荷になっている</li> <li>・受信側の対応力不足もあり、結局完遂されていない</li> <li>・こうしたコミュニケーションが形骸化してしまっている</li> </ul>	<span style="color: #0070C0;">◎</span> 資産情報と脆弱性情報の収集、突合、トリアージ、チケット管理まで対応可能です。 慣れ親しんだコミュニケーションツールとの連携も可能です。	
5. 運用体制・プロセスの未整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手動作業が多く非効率な対応が多い</li> <li>・標準化が後回し、あるいは標準化の意識が欠如している</li> <li>・部門間連携も不足し、責任の所在があいまい</li> <li>・進捗管理が表面的で、実効性に課題がある</li> </ul>	<span style="color: #0070C0;">○</span> 運用の効率化により、部門間連携の障壁を下げる事にお役立ていただけます。また業務や組織毎あるいは横断的管理が可能なグループ機能で、状況に合わせた利用が可能です。	<a href="#">弊社セキュリティコンサルタントに ご相談ください</a>
6. ツールとテクノロジーに関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムに対するツール運用のリスクと負荷が心配</li> <li>・脆弱性情報の形式がバラバラで、人間が間を埋めている</li> <li>・過剰検知で疲弊している</li> <li>・ツール自体のコストが負担である</li> </ul>	<span style="color: #0070C0;">○</span> 導入コストはかかりますが、共通化された運用を実現でき、あらゆる作業が自動化されることで対応負荷が低減されるので、工数削減に繋がります。	
7. 組織文化と経営層の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営層・管理職の理解不足で投資がなされない</li> <li>・部門間の協力不足と意識の低さ、優先度が低い</li> <li>・正しく評価されず、モチベーションが低下、人材流出へ</li> </ul>	<span style="color: #0070C0;">△</span> セキュリティの露感と影響、および回避の重要性を経営事項として捉えて頂くための、判断材料となる対応状況を可視化できます。	
8. パッチ適用・修正対応への障壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸々の制約や影響が懸念されパッチ自体適用困難</li> <li>・(パッチではなく)代替策に依存せざるを得ない</li> <li>・パッチ適応コストと関連調整が困難</li> </ul>	<span style="color: #0070C0;">△</span> 脆弱性への対応に関するスケジューリングやタスク割当などを含むチケット管理、対応に必要なパッチコマンドの表示支援まで可能です。	

## FutureVulsについて更に詳しく知りたい方

資料請求フォーム



## ご不明点はお気軽にお問い合わせください

脆弱性管理を知り尽くしたエキスパートが御社のお悩みをヒアリング  
他社事例もご紹介しながら最適なプランをご提案します

お問合せフォーム



フューチャー株式会社  
東京都品川区大崎 1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー